

2008年7月18日

各位

熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
株式会社トランスジェニック
代表取締役社長 是石 匡宏
(コード番号 2342 東証マザーズ)
(連絡先) IR・広報担当 森田 貴子
電話番号 078-306-0590

「GANP®マウス技術」に関する特許が中国にて成立

当社の基幹技術「高親和性抗体作製技術—GANP®マウス技術^{※1}（以下、本技術とする）」の特許群のうち、GANP遺伝子導入マウスを用いた高親和性抗体の製造方法に関する特許が中国において成立したことをお知らせいたします（特許番号 ZL200380102832.4）。

このたび中国で成立した特許は、熊本大学大学院 医学薬学研究部 感染・免疫学講座 教授 阪口薫雄らにより発明された本技術を広くカバーする特許であります。

当社は、本技術を基幹技術とし、本技術とのシナジー効果をもたらす種々の技術を導入し、抗体・タンパク質関連の技術プラットフォームの構築を進め、抗体事業を展開しています。

本事業においては、本技術を活用し抗体医薬や診断薬に利用可能な付加価値の高い抗体の開発に取り組むとともに、顧客の求める抗体を本技術を用いて受託作製するサービスを提供しています。

また、これらの結果得られた抗体の商用利用に際しては、本技術ライセンスを許諾しています。

当社は、本技術が当社の事業展開に資するよう国内外での知的財産の確保に向けて取り組んでまいりました。引き続き、本技術を広くカバーする関連特許群の成立を図るとともに、GANP®マウス技術による画期的な診断薬シーズ・医薬品シーズの創出に向けて研究開発ならびに事業を推進してまいります。

なお、現時点においては、本件が当社の業績に及ぼす影響は未定であります。今後、重大な影響を与えることが判明した場合には速やかにお知らせいたします。

以上

参考資料として、主な用語説明を添付しております。

< 参考資料 >

用語説明:

※ 1 GANP[®]マウス技術

GANP遺伝子が過剰に働く遺伝子改変マウス「GANP[®]マウス」を用いて抗体を作製する当社独自の技術です。

一般的な抗体の作製技術に比べ、親和性ならびに特異性の高い抗体を高確率で取得でき、体外診断薬・医薬へ応用の際に有効な技術です。

当社は、本技術を抗体関連の技術プラットフォームにおける基盤技術と位置づけ、自社製品開発への活用のみならず、抗体作製受託および製薬企業・診断薬メーカーなどへのライセンス許諾を行い、技術ライセンス収入・製品ロイヤリティを見込めるビジネスを展開しています。

◆ GANPとは？ (GANP: Germinal Center Associated Nuclear Protein)

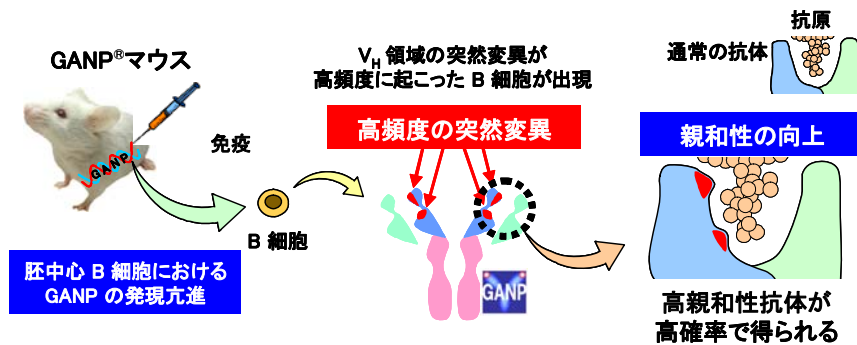
胚中心のB細胞で発現上昇する新規核内因子として、阪口薫雄教授(熊本大学)らにより発見されました。

◆ GANP[®]マウスの特徴は？

通常のマウスに比べ、胚中心B細胞でGANP遺伝子の発現が亢進します。そのGANPタンパクの働きにより、通常では得られないような、抗体可変領域遺伝子に多くの突然変異が導入されたB細胞が産生され、高確率で高親和性抗体や高特異性抗体を作製することが可能です。

◆ 参考文献

Sakaguchi N. et al., J Immunol. 2005 Apr 15;174(8):4485-94.



以上